

宮崎県立日向工業高等学校

いじめ防止基本方針

宮崎県立日向工業高等学校
いじめ・不登校等対策委員会

県立日向工業高等学校いじめ防止基本方針

はじめに

学校教育において、今、「いじめ問題」が生徒指導上の喫緊の課題となっています。また、近年の急速な情報技術の進展により、インターネットを通じてSNS、動画サイトへの投稿など、新たないじめ問題が生じるなど、いじめはますます複雑化、潜在化する状況にあります。

こうした中、改めて、全ての教職員がいじめという行為やいじめ問題に取り組む基本的な姿勢について共通理解し、組織的にいじめ問題に取り組むことが求められています。

こうした状況の中で、平成25年6月に「いじめ防止対策推進法」が公布され、平成26年2月に「宮崎県いじめ防止基本方針」が策定されたことを受け、本校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針として「県立日向工業高等学校いじめ防止基本方針」を定めるものであります。

もくじ

第1　いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項	
1　いじめの定義	2
2　いじめの防止等に関する基本的考え方	2
第2　いじめの防止等のための対策の内容に関する事項	
1　いじめの防止等のための組織	2
2　いじめの防止等に関する措置	3
(1)　いじめの防止	3
(2)　いじめの早期発見	3
(3)　いじめに対する措置	4
(4)　ネット上のいじめへの対応	5
3　その他の留意事項	6
(1)　組織的な指導体制	6
(2)　全職員への周知徹底	6
(3)　校務の効率化	6
(4)　学校におけるいじめの防止等の取組の点検・充実	6
(5)　地域や家庭との連携について	6
(6)　関係機関との連携について	6
4　重大事態への対処	7
第3　その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項	
1　基本方針の点検と必要に応じた見直し	7
【参考】資料1～5	

第Ⅰ いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

| いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

（いじめ防止対策推進法第2条）

2 いじめの防止等に関する基本的考え方

- いじめは決して許されない行為であることについて、生徒や保護者への周知を図る取組に努めます。
- いじめを受けている生徒をしっかり守ります。
- いじめはどの生徒にも、どの学校でも起こりうることを踏まえ、いじめ問題に対して万全の体制で臨みます。

第2 いじめの防止等のための対策の内容に関する事項

| いじめの防止等のための組織

いじめの防止等を実効的に行うため、「いじめ・不登校等対策委員会」を設置します。
なお、定例会（年3回）とし、いじめ事案発生時は緊急に開催することとします。

【構成員】

教頭、教育支援保健部主任、教務主任、生徒指導主事、教育支援保健部、養護教諭、
(該当学年主任)、(該当学科主任)、(該当学級担任)

【活動】

- 学校いじめ防止基本方針見直し
- 年間指導計画の作成
- 校内研修会の企画・立案
- 調査結果、報告等の情報の整理・分析
- いじめが疑われる案件の事実確認・対応方針の決定
- 要配慮生徒への支援方針決定

2 いじめの防止等に関する措置

(1) いじめの防止

いじめの問題の対応は、いじめを起こさせないための予防的取組が最も大事であると考えます。そこで、本校においては、教育活動全体を通して、自己肯定感や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てることを目指します。

ア 生徒が主体となって考える機会を設けます。

- 遠足（生徒間交流）の実施
- ホームルームでの話合い活動の推進
- ボランティア活動の推進
- 生徒会による体育大会や文化祭など学校行事
- 生徒会によるいじめ防止等の啓発活動

イ 生徒の規範意識、帰属意識を高め、自己肯定感を育む授業づくりを目指します。

- 一人ひとりの実態に応じたわかる授業の展開
- 公開授業の実施
- 学習環境・授業のアクセシブルデザイン化
- 授業改善に関する職員研修

ウ 教科やホームルームの時間等を中心として、人権教育や情報モラル教育を実施し、いじめは絶対に許されないという人権感覚を育むことを目指します。

- ホームルーム等を中心とした人権教育や情報モラル教育の実施
- 外部講師による講演会の実施

エ 家庭・地域ぐるみでいじめ防止への取組を進めるため、保護者や地域との連携を推進します。

- PTA総会での学校の方針説明
- 学校通信等を活用したいじめの防止活動の報告
- 体験入学の実施
- 保護者を対象とした研修会の開催

(2) いじめの早期発見

いじめ問題を解決するための重要なポイントは、早期発見・早期対応で、日頃から、生徒の言動に留意するとともに、何らかのいじめのサインを見逃すことなく発見し、早期の対応に努めます。

- 生徒の発する具体的なサインのチェックリスト作成と共有
- 家庭訪問週間の設定
- いじめの相談窓口の周知
- いじめ・悩みアンケートの実施（年3回）
- 気づきシートによる情報の提供・共有
- 過去のいじめ事例の蓄積

(3) いじめに対する措置

いじめを発見したときは、問題を軽視することなく、早期に適切な対応を図ります。また、いじめられた生徒の苦痛を取り除くことを最優先し、迅速に指導を行います。いじめの解決に向けて特定の教職員が抱え込みます、学年及び学校全体で組織的かつ継続的に対応します。

ア いじめの発見・通報を受けたときの対応

- 教職員は、「これぐらい」という感覚をなくし、その時、その場で、いじめの行為をすぐに止めさせます。
- いじめられている生徒や通報した生徒の身の安全の確保を最優先とした措置をとります。
- いじめの事実について生徒指導主事（いじめ・不登校等対策委員会を構成するいずれかの職員）及び管理職に速やかに報告します。

イ いじめ認知後の対応

- いじめの報告を受けた生徒指導主事等は、いじめ・不登校等対策委員会の関係職員へ報告するとともに、速やかに事実関係についての調査を行う。
- 調査の時点で、重大事態であると判断された場合は、緊急いじめ・不登校等対策委員会を開き、今後の方針について協議するとともに、校長が県教育委員会へ直ちに報告します。
- 生徒及び教職員の聞き取りに当たっては、いじめ・不登校等対策委員会の職員のほか、生徒が話をしやすいよう担当する職員を選任します。
- 必要な場合には、生徒へのアンケート調査を行います。その際調査結果の内容をいじめられた生徒又はその保護者に提供する場合があることを予め念頭に置き、調査に先立ち、その旨を調査対象となる生徒やその保護者に説明する等の措置が必要であることに留意します。

ウ 解決に向けた指導及び支援

- 専門的な支援などが必要な場合には、県教育委員会及び警察署等の関係機関へ相談します。
- 解決を第一に考え、保護者及びその他の関係者との適時・適切な情報の共有を図ります。
- 指導及び支援方針の変更等が必要な場合は、随時いじめ・不登校等対策委員会で決定します。
- 事実関係が把握された時点で、いじめ・不登校等対策委員会において、指導及び支援の方針を決定します。
- いじめ・不登校等対策委員会の委員や学年・学科職員と連携して組織的な対応に努めます。
- 指導及び支援を行うに当たっては、以下の点に留意して対処します。

エ 関係機関・専門機関への報告

- 校長は県教育委員会への報告を速やかに行います。
- 生命や身体、財産への被害など、いじめが犯罪行為であると認められる場合には所轄警察署へ通報し、警察署と連携して対応します。

オ 継続指導・経過観察

- いじめに係る行為が止んでから3か月間、全教職員で見届けや見守りを行い、いじめの再発防止に努めます。

(4) ネット上のいじめへの対応

ア ネットいじめとは

文字や画像を使い、特定の生徒の誹謗中傷を不特定多数の者や掲示板等に送信する、特定の生徒になりすまし社会的信用を貶める行為をする、掲示板等に特定の生徒の個人情報を掲載するなどがネットいじめであり、犯罪行為に当たります。

イ ネットいじめの予防

○基本的に携帯電話（SNS機能を有する）等を持たせないことが望ましい。

利用させる場合においては情報モラル教育を先ず保護者が責任を持って行うよう啓発します。

○教科やホームルーム活動等における情報モラル教育の充実を図ります。

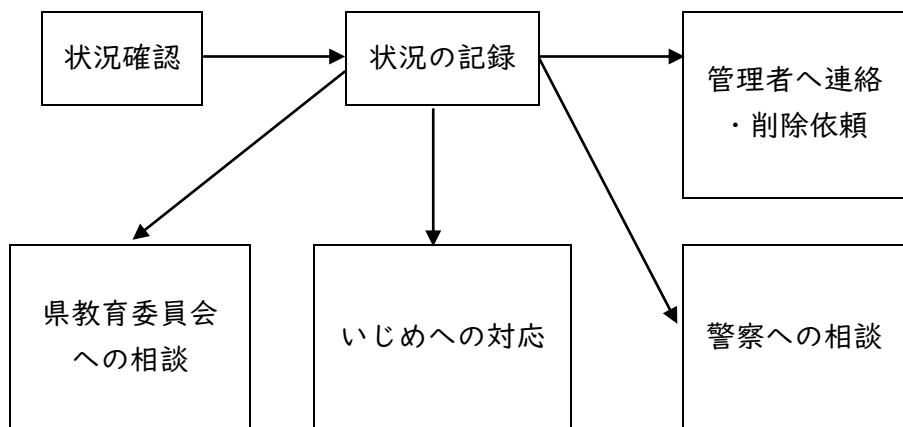
○生徒を対象とした講演会などで、ネット社会についての講話（防犯）を実施します。

○ICTに関する職員研修を実施します。

ウ ネットいじめへの対処

○被害者からの訴えや閲覧者からの情報、ネットパトロールなどにより、ネットいじめの把握に努めます。

○不当な書き込みを発見したときには、次の手順により対処します。



※県教育委員会の目安箱サイト等の活用

3 その他の留意事項

(1) 組織的な指導体制

いじめを認知した場合は、教職員が一人で抱え込みます、学年・学科及び学校全体で組織的に対応するため、いじめ・不登校等対策委員会による緊急対策会議を開催し、指導方針を立て、組織的に取り組みます。

(2) 全職員への周知徹底

本校においては、本基本方針を周知徹底し、いじめの問題について、全ての教職員で共通理解を図ります。

(3) 校務の効率化

教職員が生徒と向き合い、相談しやすい環境を作るなど、いじめの防止等に適切に取り組んでいくことができるようになりますため、校務分掌を適正化し、組織的体制を整えるなど、校務の効率化を図ります。

(4) 学校におけるいじめの防止等の取組の点検・充実

いじめの実態把握の取組状況等、学校における取組状況を点検するとともに、県教育委員会が作成している「教師向けの生徒指導資料」や、「児童生徒にとって魅力ある学校づくりのためのチェックポイント」、「いじめ問題への取組に関するチェックシート」の活用を通じ、学校におけるいじめの防止等の取組の充実を目指します。

(5) 地域や家庭との連携について

より多くの大人が子どもの悩みや相談を受け止めることができるようになりますため、学校と地域、家庭が組織的に連携・協働する体制を構築していきます。

(6) 関係機関との連携について

いじめは学校だけでの解決が困難な場合があるため、情報交換だけでなく、一体的な対応をしていきます。

① 教育委員会との連携

- ・関係生徒への支援・指導、保護者への対応方法
- ・関係機関との調整

② 警察との連携

- ・心身や財産に重大な被害が疑われる場合
- ・犯罪等の違法行為がある場合

③ 教育相談体制の充実

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用

④ 医療機関との連携

- ・精神保健に関する相談
- ・精神症状についての治療、指導・助言

4 重大事態への対処

- (1) いじめ事案が次の状況にある場合には、重大事態として直ちに、校長が県教育委員会に報告するとともに、県教育委員会が設置する重大事態調査のための組織（宮崎県いじめ問題対策委員会）に協力することとします。
- 生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある場合
 - ・生徒が自殺を企図した場合
 - ・精神性の疾患を発症した場合
 - ・身体に重大な傷害を負った場合
 - ・高額の金品を奪い取られた場合など
 - 生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている場合
 - ・年間の欠席が30日程度以上の場合
 - ・連続した欠席の場合は、状況により判断する
- (2) 事案について、事実関係等その他の必要な情報を提供する責任を有することを踏まえ、調査により明らかになった事実関係について、個人情報の保護に配慮しつつ、適時・適切な方法で説明します。

第3 その他のいじめの防止等のための対策に関する重要事項

I 基本方針の点検と必要に応じた見直し

- (1) 学校の基本方針の策定から3年を目途として、国や県の動向等を勘案して、基本方針の見直しを検討し、必要があると認めるときは、その結果に基づいて必要な措置を講じます。
また、基本方針については、現状や課題等に応じて、普段から定期的な改善や見直しに努めます。
- (2) 学校の基本方針について、ホームページ上で公表します。
- (3) この方針は平成26年4月1日より施行し、必要に応じて改訂いたします。
- ①平成30年3月改訂
 - ②令和3年3月改訂
 - ③令和7年3月改訂

資料 1

日向工業高校いじめ防止プログラム

月	学校行事	生徒が主体となった活動	道徳や特別活動	職員研修	早期発見・早期対応	保護者・地域との連携	PDCA
4	対面式情報モラル教室	遠足での仲間づくり 対面式でのクラス・部活動紹介	グループエンカウンター（1年）	学校基本方針の確認と目標の共有 生徒理解研修 人権・教育相談等に関する職員研修	気になる生徒アンケート（9月、1月にも実施）	いじめ・不登校等 対策委員会	P T A 総会 (基本方針の説明) 学校通信でのいじめ防止活動報告
5	生徒総会式	生徒総会での意見交換 壮行式での帰属意識の高揚			第1回いじめ・悩みアンケート	いじめ・不登校等対策委員会で各学年の生徒状況やいじめ・悩みアンケートの結果等を報告し組織的対応について協議	家庭訪問・保護者面談による保護者との連携
6	家庭訪問					アンケートの分析と取組改善の協議	学校通信でのいじめ防止活動報告
7	クラスマッチづくり		第1回人権教育教室	第1回人権教育事前研修			人権教育教室職員アンケート
8					人権・教育相談等に 関する職員研修	第2回いじめ・悩みアンケート	中間評価と取組の改善
9	体育大会	体育大会での絆づくり		第2回人権教育教室(講演)		アンケートの分析と取組改善の協議	学年PTA 学級懇談
10						県アンケート	学校基本方針に ついて保護者・地域アンケート
11	文化祭	文化祭での絆づくり 修学旅行での絆づくり			人権・教育相談等に 関する職員研修	※緊急の事案については随時対策委員会を開催	
12	修学旅行	全校集会等でのいじめ防止呼びかけ		第3回人権教育事前研修			学校通信でのいじめ防止活動報告
1						※アンケートの分析、取組の改善原案作成	保護者アンケートの分析
2							年間評価
3	クラスマッチづくり	クラスマッチでの絆道徳教育全体計画					人権教育教室職員アンケート
							次年度計画作成

※実施時期は予定であり、若干の変更等あり

資料2

日向工業高等学校におけるいじめの防止等のための職務別ポイント

- 本校は、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定める
- 本校は、複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を設ける
 - ・ いじめへの対応は、校長を中心に一致協力体制を確立することが重要
 - ・ いじめに関する情報は特定の教職員が抱え込むのではなく、「組織」で情報共有し組織的に対応
 - ・ いじめに係る情報が教職員に寄せられた時は、教職員は、他の業務に優先して、かつ、即日、当該情報を速やかに学校いじめ対策組織に報告し、学校の組織的な対応につなげる

(1) いじめの防止のための措置

《学級担任等》

- ・ 日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気を学級全体に醸成する
- ・ はやしたてたり見て見ぬふりをしたりする行為もいじめを肯定していることを理解させ、いじめの傍観者からいじめを抑止する仲裁者への転換を促す
- ・ 一人一人を大切にした分かりやすい授業づくりを進める
- ・ 教職員の不適切な認識や言動が、生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方には細心の注意を払う

《養護教諭》

- ・ 学校保健委員会等の学校の教育活動の様々な場面で命の大切さを取り上げる

《生徒指導主事・教育相談コーディネーター》

- ・ いじめの問題について校内研修や職員会議で積極的に取り上げ、教職員間の共通理解を図る
- ・ 日頃から関係機関等を定期的に訪問し、情報交換や連携に取り組む

《管理職》

- ・ 全校集会などで校長が日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気を学校全体に醸成する
- ・ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進等に計画的に取り組む
- ・ 生徒が自己有用感を高められる場面や、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設けるよう教職員に働きかける
- ・ いじめの問題に児童生徒自らが主体的に参加する取組を推進する（例えば、生徒会によるいじめ撲滅の宣言や相談箱の設置等）

(2) 早期発見のための措置

《学級担任等》

- ・ 日頃からの児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ
- ・ 休み時間・放課後の生徒との雑談や日記等を活用し、交友関係や悩みを把握する
- ・ 個人面談や家庭訪問の機会を活用し、教育相談を行う

《養護教諭》

- ・ 保健室を利用する生徒との雑談のなか等で、その様子に目を配るとともに、いつもと何か違うと感じたときは、その機会を捉え悩みを聞く

《生徒指導主事・教育相談コーディネーター》

- ・ 定期的なアンケート調査や教育相談の実施等に計画的に取り組む
- ・ スクールカウンセラー等による相談室の利用、電話相談窓口について周知する
- ・ 休み時間や昼休みの校内巡視や、放課後の校区内巡回等において、生徒が生活する場の異常の有無を確認する

《管理職》

- ・ 生徒及びその保護者、教職員がいじめに関する相談を行うことができる体制を整備する
- ・ 学校における教育相談が、生徒の悩みを積極的に受け止められる体制となり、適切に機能しているか、定期的に点検する

(3) いじめに対する措置（※別紙：「組織的ないじめ対応の流れ」と連動）

① 情報を集める

《学級担任等、養護教諭》

- ・ いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める（暴力を伴ういじめの場合は、複数の教職員が直ちに現場に駆けつける）
- ・ 生徒や保護者から「いじめではないか」との相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴する
- ・ 発見・通報を受けた場合は、速やかに関係生徒から聞き取るなどして、いじめの正確な実態把握を行う
- ・ その際、他の生徒の目に触れないよう、聞き取りの場所、時間等に慎重な配慮を行う
- ・ いじめた生徒が複数いる場合は、同時刻にかつ個別に聞き取りを行う

《いじめ・不登校等対策委員会》

- ・ 教職員、生徒、保護者、地域住民、その他からいじめの情報を集める
- ・ その際、得られた情報は確実に記録に残す
- ・ 一つの事象にとらわれ過ぎず、いじめの全体像を把握する

② 指導・支援体制を組む

《いじめ・不登校等対策委員会》

- ・ 正確な実態把握に基づき、指導・支援体制を組む（学級担任等、生徒指導部、教育支援保健部、養護教諭、管理職等で役割を分担）
 - いじめられた生徒や、いじめた生徒への対応
 - その保護者への対応
 - 教育委員会や関係機関等との連携の必要性の有無 等
- ・ ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの確に関わりを持つことが必要
- ・ 生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める
- ・ 現状を常に把握し、隨時、指導・支援体制に修正を加え、「いじめ・不登校等対策委員会」により適切に対応する

③-A 子供への指導・支援を行う

※「いじめ・不登校等対策委員会」で決定した指導・支援体制に基づき指導・支援を行う

《いじめられた生徒に対応する教職員》

- ・ いじめられた生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保するとともに、いじめられた生徒に対し、徹底して守り通すことを伝え、不安を除去する
- ・ いじめられた生徒にとって信頼できる人（親しい友人や教職員、家族、地域の人等）と連携し、いじめられた生徒に寄り添い支える体制をつくる
- ・ いじめられている生徒に「あなたが悪いのではない」ことをはっきりと伝えるなど、自尊感情を高めるよう留意する

《いじめた生徒に対応する教職員》

- ・ いじめた生徒への指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる
- ・ 必要に応じて、いじめた生徒を別室において指導したり、出席停止制度を活用したりして、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受ける環境の確保を図る
- ・ いじめる生徒に指導を行っても十分な効果を上げることが困難である場合は、所轄警察署等とも連携して対応する
- ・ いじめた生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向ける
- ・ 不満やストレス（交友関係や学習、進路、家庭の悩み等）があっても、いじめに向かうのではなく、運動や読書等で適切に発散できる力を育む

《学級担任等》

- ・ 学級等で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする
- ・ いじめを見ていた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせるとともに、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つよう伝える
- ・ はやしたてるなど同調していた生徒に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる

《いじめ・不登校等対策委員会》

- ・ 状況に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、警察官経験者等の協力を得る等、対応に困難がある場合のサポート体制を整えておく
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行う
- ・ 指導記録等を確実に保存し、生徒の進学・進級や転学に当たって、適切に引き継ぎを行う

③-B 保護者と連携する

《学級担任を含む複数の教職員》

- ・ 家庭訪問（加害生徒、被害生徒とともに学級担任を中心に複数の教職員で訪問）等により、迅速に事実関係を伝えるとともに、今後の学校との連携方法について話し合う
- ・ いじめられた生徒を徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り保護者の不安を除去する
- ・ 事実確認のための聞き取りやアンケート等により判明した、いじめ事案に関する情報を適切に提供する

資料3

いじめられた生徒・いじめた生徒に見られるサイン

1 いじめられた生徒のサイン

いじめられた生徒は自分から言い出せないことが多い。複数の教職員が、複数の場面で生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことを大切にする。

場面	サイン
登校時 朝のS.H.R	遅刻・欠席が増える。その理由を明確に言わない。 教職員と視線が合わず、うつむいている。 体調不良を訴える。 提出物を忘れたり、期限に遅れたりする。 担任が教室に入室後、遅れて入室してくる。
授業中	保健室・トイレに行くようになる。 教材等の忘れ物が目立つ。 机周りが散乱している。 決められた座席と異なる席に着いている。 教科書・ノートに汚れがある。 教職員や生徒の発言等に対して、突然個人名が出される。
休み時間 等	弁当にいたずらをされる。 昼食を教室の自分の席で食べない。 用のない場所にいることが多い。 ふざけ合っているが表情が見えない。 衣服の汚れ等がある。 一人で清掃している。
放課後等	慌てて下校する。 用もないのに学校に残っている。 持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。 一人で部活動の準備、片付けをしている。

2 いじめた生徒のサイン

いじめた生徒がいることに気が付いたら、積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

サイン
教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。 ある生徒にだけ、周囲が異常に気を遣っている。 教職員が近づくと、不自然に分散したりする。 自己中心的な行動が目立ち、集団の中心的な存在の生徒がいる。

資料4

教室や家庭でのいじめのサイン

1 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教職員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

サイン

嫌なあだ名が聞こえる。
席替え等で近くの席になることを嫌がる。
何か起こると特定の生徒の名前が出る。
筆記用具等の貸し借りが多い。

壁等にいたずら、落書きがある。
机や椅子、教材等が乱雑になっている。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

サイン

学校や友人のことを話さなくなる。
友人やクラスの不平・不満を口にするが多くなる。
朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。
電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。
受信したメールをこそぞ見たり、電話におびえたりする。
不審な電話やメールがある。
遊ぶ友達が急に変わる。
部屋に閉じこもったり、家から出なかったりする。

理由のはっきりしない衣服の汚れがある。
理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。
登校時刻になると体調不良を訴える。
食欲不振・不眠を訴える。

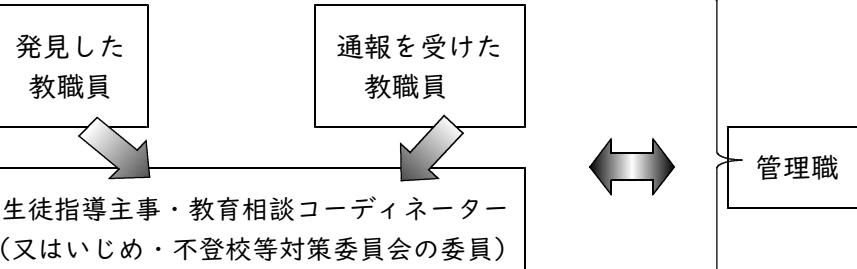
学習時間が減る。
成績が下がる。

持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。
自転車がよくパンクする。
家庭の品物、金銭がなくなる。
大きな額の金銭を欲しがる。

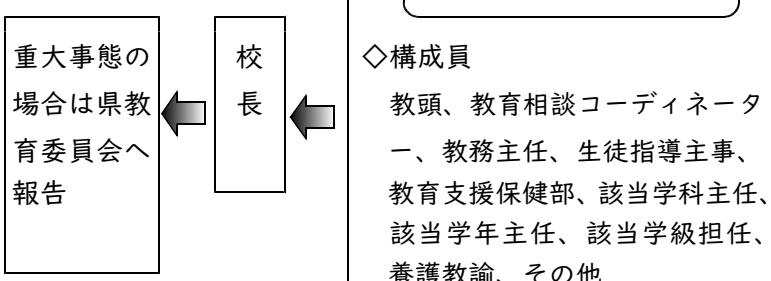
資料5

いじめに対する措置（緊急時の組織的対応）

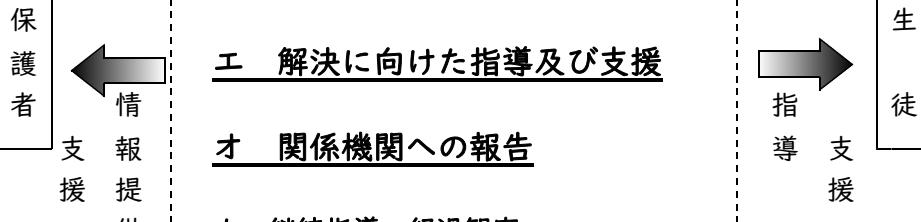
ア いじめの発見・通報を受けたときの対応



イ 情報の共有



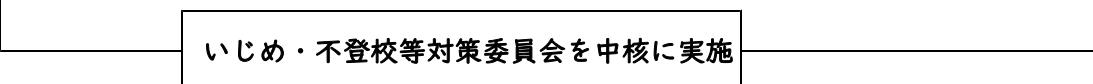
ウ 調査・事実関係の把握



エ 解決に向けた指導及び支援

オ 関係機関への報告

カ 繼続指導・経過観察



学

校

